

# 八月になると思うこと

五木寛之氏もご自身の八月を書かれています。日本人にはそれぞれの八月があります。御巢鷹山のJAL123事故の犠牲者ご遺族のお気持ちの複雑さはいかばかりでしょう。原因が分からない事件や事故が歴史にはあります。

私は太平洋戦争の始まった1941年8月に生を受けました。

敗戦後70年の節目を意識して、昭和史を見ていると何気なくその頃の大日本帝国の領土地図に目がとまり、改めてその領土の大きさに驚きました。改めてとは高校時代の知識を忘れていたからです。

何故こんな広域に日本は領土を拡げることができたのかという疑問をもって高校歴史教科書「日本史B」準拠の参考書を読み始めました。

歴史の逆読みをして、その起点は1874年の台湾出兵が「近代日本初の海外派兵」で琉球処分にあることが分かり、また、その後の戦争の始め方に或る共通点があることに気づきました。既に2009年に加藤陽子さんが高校生と対談した名著「それでも日本人は戦争を選んだ」がありますが、今、安倍政権の戦争法案を前にしてそのやり方が過去の戦争の歴史に共通しているように思い、多くの人が指摘している「過去に戻っている」「戦前と同じだ」という言葉を戦争体験のない高校生と共に学んで見たいと思いました。

## 1、台湾出兵と琉球処分

### (1)台湾出兵の原因

①1871年（明治4年）9月、日清修好条規を締結した翌月に事件が起きた。

琉球漁民が台風に遭難し、台湾に漂着した。乗員69名内3人は溺死、66人が拉致された。

12月7日遭難民は逃走を試みたが54名が斬首された。12名は帰還した。

②1872年（明治5年）琉球を管轄していた鹿児島県参事が政府に対して清国の責任追及の出兵を建議した。（琉球国は旧薩摩藩と清国の両属であった）

③ 1873年（明治6年）岡山県倉敷市の船が台湾に漂着、乗組員4名が略奪をうける事件が起きた。

副島種臣外務卿が清国に渡り①の事件を問いただしたが、清国は台湾は実行支配していない管轄地域外である、「あそこは野蛮人がうようよ住んでいる処だから事件は不運だと思って諦めてください」と無責任な対応をした。

アメリカは「野蛮人を懲罰するべきだ」と日本の外務省に提唱していた。

④ 1874年4月、大久保利通は台湾征討を決断

大隈重信をトップとして、西郷従道（隆盛の弟）と共に軍事行動の準備に入ったが木戸孝充は反対して参議を辞任（征韓論の否定に矛盾する行為）したので政府は一旦は派兵を中止した。

然し5月、西郷従道は独断で出兵を強行した。（清国が責任をとれないのだったら、現地の住民に日本が直接正義を教えるという名目）政府はやむなく追認した

この事件は「近代日本初の海外派兵」である。

最終断行は組織の命令を無視した個人の決断によっている。

それが責められるのでなく追認されている。（後の戦争で繰り返す）

## (2)台湾出兵の結果

8月イギリス公使ウェードの斡旋で和議が進められ、大久保利通が北京に赴いて交渉、10月日清両国互換条約に調印、清国は遭難民に対して見舞金10万両を支払うこととなった。

これにより琉球国(藩)が日本の支配下にあることを清国が認めたことになり、琉球の日本帰属が国際的に承認されるかたちとなった。

① 1875年（明治8年）琉球に対して清国との冊封・朝貢関係の廃止を命令した。琉球国（藩）は清国との冊封・朝貢関係の保持を嘆願した。

1879年1月迄嘆願は繰り返された。

②明治政府は1879年（明治12年）軍隊300余名、警官160余名を率いて首里城に入り廃藩置県を布告した。第二次琉球処分を行い沖縄県とした。（第一次は1872年）

沖縄県は「旧慣温存」で本土並みの権利は与えない非常に差別的な扱いとなった。（差別が始まった）

## (3)私見と感想

①日本の海外派兵は日清戦争ではなく台湾出兵であり、そこでは琉球国と清朝の関係に日本が濃密且つ強行に関与している。出兵の目的は琉球国を明確に日本の領

土にすることであった。目的は琉球処分（琉球国を無理やり日本領とすること）の正当化であると思われる。

- ②出兵の仕方に政府は反対、軍部は賛成で名目をつけて軍事行動を起こした。それを政府がやむなく追認していく。この政府と軍部の微妙な関係はこの時点から始まっている。
- ③「冊封・朝貢」清国や朝鮮との関係を理解するのに必要です。以下に簡単に説明します。

## 2、朝貢と冊封

「朝貢と冊封」は中華思想に基づく中国とその周辺国（朝鮮・琉球・ベトナム等）の主従関係を伴う外交のあり方のこと。分かり易く説明すると

(1)中華思想とは、中国の河南省地方を天下の中央と考えてその地を中華と称し、その中華を天命を受けた天子（皇帝）が徳をもって支配し、天下（全世界）に「礼」と「法」を広めるという考え方

(2)朝貢とは、周辺諸国が天子の徳を慕い敬意をはらって、天子の臣下として服従することを明らかにするために特産物を献上すること。

(3)冊封とは、朝貢してきた周辺国の首長に国名や王号（それに付随する印鑑も）を与え、その領域の支配権を認めること。支配権を認められた国を冊封国という。冊封国には中国との貿易が認められる。冊封国以外は中国との貿易は許可されない。

### (4)中国と冊封国との関係

- ①冊封国は独立した国であり国内政治には中国は関与しない。
- ②中国が冊封国を侵略することはない。平和的な関係を維持できる。
- ③冊封国が他国から攻められたら中国からの支援がもらえる。
- ④中国が他国から攻められたら冊封国は中国からの要請に応える
- ⑤中国と独占的な貿易関係が結ばれる
- ⑥冊封国と冊封国との関係が良好に維持できる。貿易もできる。
- ⑦冊封国は大国中国との関係を権威の裏付けとして自らの支配権を強化できる

## (5)冊封と日本との関わり

- ①後漢の光武帝が倭国の使者に金印を授け、その後三国時代の魏に邪馬台国の支配者卑弥呼が朝貢のための使節を送っている。大和朝廷になってからはなくなっている。
- ②室町幕府の時代に足利義満が朝廷に無断で宗国の皇帝に朝貢している。  
日明貿易は朝貢貿易である
- ③日清戦争の原因は日本と朝鮮が締結した条規(1876年後述) に清国が反対したことが主な原因である。この条規は清国と朝鮮の冊封関係を中止させ朝鮮の独立を明らかにしているため清国が反対した。
- ④台湾出兵と琉球処分時も琉球国は清国との冊封関係の維持を日本政府に嘆願している。
- ⑤朝鮮の鎖国政策は冊封の考えが慣習となって政治家に染み込んでいた。朝鮮の近代化にはマイナスの影響を与えた。完全な独立意識が持てないのは気の毒である。

## (6)私見と感想

冊封関係を調べていると面白い事件に目が惹かれた。明治維新前夜の出来事である。八戸事件と言われているが新聞紙上を利用した情報攪乱事件といえる。作者不詳のみならず今もって原文は発見されず、発表されたという新聞の存在も疑わしい。にもかかわらず清国・朝鮮には日本の脅威を植え付けることに成功していると思われる記事である。

関係論文もあるようですが作者がわかることはないでしょう。

## 3、八戸事件 1867年

日本と朝鮮及び清国の外交関係に根深い影響を与えた情報攪乱事件があった。1867年1月17日 清国広州の新聞「中外新聞」に次の内容の記事が掲載された。寄稿者は香港在住の日本人・八戸順叔と名乗るものである。

### (1)報道の内容

- ①日本は軍制を改革して、新型兵器・軍艦を購入・製造し蒸気軍艦80隻を所有している
- ②12歳から22歳までの優秀な若者14名を選抜してロンドンに派遣した。留学生らは西洋風の髪型にそろえたヨーロッパ式の軍服を着用し、英語に精通している。
- ③江戸幕府は中浜万次郎（ジョン万次郎）を上海に派遣し蒸気軍艦を建造し既に帰国している。
- ④幕府は国中の260名の諸侯を江戸に結集して、朝鮮を征討しようとしている。

⑤日本が朝鮮を征討しようとするのは、朝鮮が5年に一度実施していた朝貢をやめ、久しく廃止しているからだ。

## (2)報道の信憑性

- ①この報道には事実と虚実が混合している。その組み合わせが絶妙という他はない。特に80隻、260名は事実ではない。ジョン万次郎は上海で建造したのではなく、既成の英国帆船を購入している。明治維新の前年は幕府は混乱しており朝鮮征討のため召集する余裕はなかったと言われている。
- ②この記事は現在に至るまで原本が発見されていない。清朝の総理衙門（清朝の外交を司る国家機関）による引用文があるのみ。本当に新聞記事があったのか？「中外新聞」は広州には存在しない。寧波ではその名前の新聞はあった。
- ③八戸順叔（ハッコジュンシュク）という同姓同名人物が香港在住の日本人の中には存在していなかった。正体不明である。  
別名で八戸喜三郎は存在しているが同一人物とは断定できない（動機がない）

## (3)清朝の対応

- ①3月20日清朝の総理衙門は朝鮮に密かに伝えて日本の朝鮮征討の実情調査を上奏している。清国は八戸事件を現実にする事としてとらえていた。清国と朝鮮は冊封関係にあり朝鮮を属国とみなしている。その朝鮮が日本に侵略されると陸続きの脅威になる。

清国李鴻章は3年前（1864年）に日本の脅威と警戒について言及している。

「中国が自立できれば日本は味方となり、西洋に対抗できる。出来なければ、日本は西洋に倣って中国侵略に参加する側となるだろう。日本は小国といえ時期を逸さず国家の方向を転換しつつある。中国も日本に倣って変革すべきである」

（1871年の日清修好条規へつながる）

## (4)朝鮮の対応

- ①日本との外交は1592年-97年の秀吉の文禄の役・慶長の役で断絶していた。
- ②1607年、江戸幕府は対馬藩を通じて国交回復、朝鮮通信使の開始  
釜山に倭館（日本館）を設置して対馬藩士の常駐を認めた。
- ③1811年朝鮮の反対を押し切り、日本の都合で通信使派遣を中止  
（これが八戸情報の一部になっている）
- ④1864年当時の朝鮮の指導者大院君（だいいんくん）は清国以外との他国とは強力な鎖国政策を始める。



江戸幕府も対馬藩を通じてしか貿易が出来なかった。

清国との冊封関係が強化された。

- ⑤1866年2月フランス宣教師や朝鮮のカトリック教徒を大弾圧をした。  
1866年8月アメリカの武装商船ジェネラル・シャーマン号事件  
両国の報復攻撃に勝利していたが、清国から「フランス・アメリカ両国からの反撃に日本が加担する可能性がある」との情報がいった。この情報を大院君は事態重大と受けとめた。
- ⑥そのような状況下で八戸情報が伝えられた。1867年3月である。  
朝鮮は江戸幕府に征韓計画について説明を求める。幕府は事実無根と正式に否定した。大政奉還は11月9日であった。

#### (4)私見と感想

- ①日本にはこの時点では征韓論は具体化していないと思われるが、朝鮮征討を促す契機はこの八戸情報にはあるように感じられる。
- ②日本を牽制する情報を出して得をするのは誰なのか？その答えは永遠に明らかにされないだろう
- ③この事件は信憑性がないことで問題にされることが少ないようである。

なかなか日清戦争にたどり着かないもどかしさを感じながら、調べていきますと江華島事件にぶつかった。これは日本史Bにも記載がある。冊封関係と八戸事件が結び付いた事件の感じがします。

## 4、江華島事件

江華島事件とは1875年9月朝鮮の首都漢城の北海岸にある江華島付近で日本と朝鮮の間で起こった武力衝突、結果が日朝修好条規をもたらした。

この事件は明治8年に起きているがその原因は幕末に遡る両国の関係の悪化にあった。

八戸情報や朝鮮の強固な鎖国政策（清国との冊封関係の維持）と日本の海外進出の利害が衝突した事件。日本では征韓論に関係する。



## (1)事件発生への両国間の動き

- ①1868年、明治政府は王政復古の知らせを朝鮮へ知らせるために国書を送った。  
その中の文に「皇」「勅」等の文字が含まれていた。これらの文字は清国だけが用いることができるもので清国に失礼であるとの理由で受取を拒否された。  
これを書契問題といいこの後も頻繁に起こる。
- ②1870年津島藩を通じて行っていた外交を政府が直接に皇史を派遣すべきとの意見が強くなり、調査目的で佐田白茅を派遣したが印象が更に悪化した。
- ③1871年日清修好条規締結――平等な内容――日本国内では廃藩置県
- ④1872年釜山の倭館を大日本公館と改称し外務省が直接管理することにした。  
外務省森山茂らが書契をもって蒸気船で渡朝した。朝鮮側は猛反対、倭館への食料供給を停止、貿易活動も停止された。
- ⑤1873年倭館の前の門に次のような通達が張り出された  
「無法の国、恥知らず、衣服容貌とも日本人にあらず、（明治政府）天下の笑うところとなるを、平然としている恥知らずである」  
又、大院君は「日本夷狄と化す。禽獸と何ぞ別たん。我が国にして日本人に交われるものは死刑に処せん」と布告した。
- ⑥これを知った日本側に征韓論が強化された。  
征韓論にも二つの異なった見解があった。釜山の居留民保護のため派兵を主張する板垣退助、後藤象二郎、江藤新平と派兵には反対、外交交渉を優先する西郷隆盛。朝鮮側には侵略される懸念が高まった。
- ⑦この西郷が「俺が行く」を阻止したのが岩倉遣外使節団組の岩倉具視、木戸孝允、大久保利通、伊藤博文である。これによって西郷隆盛、板垣退助らは下野する（明治6年政変）翌年江藤新平の佐賀の乱が起きる。明治のリーダー達の分裂が始まった。（下野―げや―政治から離れること）
- ⑧1875年（明治8年）釜山に於いて初めての政府間交渉が持たれたが饗宴の儀において日本大使の大礼服着用（服装問題――西洋化しすぎている）こと等で交渉が中止となった。  
朝鮮の西洋化嫌いは冊封制度による鎖国体制の徹底と儒教文化の踏襲、支配体制の独占化、民主化への警戒等が考えられるが八戸情報に影響を受けて清国と共通の日本への脅威及び清国への忖度があったと思われる
- ⑨頑なな朝鮮の態度に怒りを感じていた人々が動き始める  
海軍太輔川村純義の建議によって、測量や航路研究を名目とし、軍艦2隻を朝鮮沿岸に極秘裏に派遣した。この極秘裏は国内のかつての征韓論者に知られては困る。彼らの下野を目的に征韓論を否定しておいて、今更征韓論を実行するというのには些かの良心の呵責があったのであろう

⑩このような背景のもとで江華島事件が発生する。

## (2)事件の推移

両国間に種々の言い訳があるがここでは割愛します。

①1875年（明治8年）5月「雲揚」、6月には「第二丁卯」という日本の軍艦が日朝交渉（開国）の停滞を督促するために派遣された。

②色々な工夫をしたが結果は朝鮮側官吏や釜山周辺の住民に恐怖感を与えた。

（八戸情報の実現とも思ったかも知れない）一旦この2隻は長崎に帰港した。

③9月20日に再度江華島付近を航海中、薪水を求めてボートで島に向かったところを砲台から発砲された。最初に発砲したのは朝鮮側であった。

「日本史B」のある説明では、ボートで近づき相手に発砲させることが目的で

「しめた。向こうから手を出してきた」というので、応戦して、上陸して、砲台を大破して、隣の永宗島を占領したと記述されており、私はこの説明がスッキリするのでここに引用した。戦闘は3日間続いたが日本側は戦利品を捕獲して城内を焼きらい戦闘は終了した。

④朝鮮側の通説では「朝鮮側の攻撃を誘発するべく企図されて計画的挑発行為によって引き起こされた」となっている。日本側もこの説を積極的に反論していない。

⑤1876年（明治9年）黒田清隆を特命全権大使とする交渉団が江華府へ派遣され開戦は避けられ「日朝修好条規」締結となった。

## (3)日朝修好条規の内容

①第一款は「朝鮮国は独立国であつて、日本国と平等の権利をもつ国であり、今後両国は仲良くしていくために、同等の礼儀でもって外交関係を続けていこうそしてお互いに疑ったりすることがないようにしましょう」（日本史Bの訳）  
この意味するところは「清国からの支配下から脱出しなさい。清国から影響を受ける国であつてはならない」と強要している。清国との冊封関係を止めなさいということである。清国の宗主権の否定である。当然清国に怒りをもたらす。

②首都漢城に日本の公使館を設置する。

③無関税特権を認めさせる。領事裁判権も認めさせる。

④釜山、仁川、元山を開港させる。

この時の朝鮮の国内情勢は1873年に大院君が失脚退位させられ、幼少の高宗が大元君の妻側の閔氏一族に実権が移り混乱が続いていた。開国派の力が強くなっていたが外交能力が低いところを見計らって、日本は西洋から押し付けられた不平等条約に学んで同じ朝鮮に押し付けた。



⑤貿易が始まると朝鮮の国内経済は混乱し政府に対する不満が下級の兵士達から高まってきた。

これを機とみた大院君が1882年にクーデターを起こす。（壬午事変・壬午軍乱）宗主権を主張する清国がこのクーデターを鎮圧して大院君を清国に連れて行ってしまふ。

⑥このクーデターで日本公使館も襲われ、損害賠償を求める。

日本と朝鮮の間で「済物捕条約」が締結されるが朝鮮の反日感情が強くなり清国により接近するようになる。日清戦争への下地が出来ていくのです。（来月へ続く）

## 裏面交流の達人

安倍首相の70年談話を真剣に見ました。2017年8月14日午後6時から26分間、一語一句逃さないように慎重にテレビを見たことは久しくありませんでした。

途中から私の頭に浮かんだのが「裏面交流の達人」という言葉でした。

裏面交流とは交流分析（心理学）の言葉です。

分かり易く定義を説明すると

「真実を隠した裏のあるコミュニケーション」（操作的意志）

「本音と建前を同時に発するダブルメッセージ」（責任回避・引用的）

「実なる内心を隠し虚なる発言で相手惑わす会話」（主語はないが主張はある）

裏面交流は後味の悪い交流です。繰り返すと嘘をついても平気でいられます。本音を現さず自分の意志を通そうとしますから話が長くなります。言い訳がましくなります。私はそう考えていないのだが「某々」に言わされているから仕方なく発言している。多くの新聞記事が指摘しているように「主語」がないが他意はある。

村山談話の簡潔明瞭さに比較して冗長で品格を欠く内容になっている。

「福島はアンダーコントロールされている」等から分析して、国際的な場で平気で嘘を言える能力は人生脚本の一部を形成していると私は考えます。

高校の入試試験で「侵略」「植民地支配」「反省」「お詫び」の4語句を用いて文章を作りなさいという形の問題がよくあります。その場合には「〇〇字以内」という制限があり原稿用紙が用意されているものです。

制限のない権力者は独裁者です。談話をよく分析すると「言いたいことは全部言っている。気が付かないだろう」という操作があるゆえに後味の悪さが残るものになっていると私には感じられます。韓国からは「日本政府の誠意ある行動が何よりも重要だ」というのが的を得た指摘であると思います。今後の国会審議の中で野党が何処まで矛盾を追及できるかが日本の課題です。

裏面交流の最後の結末は、必ず「本音」が表れることです。